

第52回(平成26年度)北海道優良米生産出荷共励会最優秀賞受賞者現地報告

移植栽培部門 生産グループの部

第3部 最優秀賞

(もち10.0ha以上)

受賞者 生産グループ名称 初山別村特別栽培米生産組合
代表者住所・氏名 苫前郡初山別村字千代田21番地1・木村 茂
審査員 一般社団法人 北海道米麦改良協会 技監 相川 宗 巖

1 経営の概況

- (1) 耕地面積 138.13ha (田・畑の合計)
(2) 水稲作付面積 29.36ha (3カ年の平均、加工用米・新規需要米・政府備蓄米を含め79.1ha)

項目	年次	平成24年	平成25年	平成26年	3カ年の平均
水稲作付面積		33.09 ha (86.2)	29.50 ha (76.0)	25.48 ha (75.2)	29.36 ha (79.1)

注) 加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く面積。() は一般栽培を含む面積。

2 構成生産者の状況

	平成24年	平成25年	平成26年
戸数	5	5	5

3 立地条件と稲作の経歴

(1) 地勢・立地条件

初山別村は、北海道留萌振興局の北部に位置し、日本海に面した、農業・水産業など第一次産業を中心にした農家戸数104戸(平成22年2月1日現在)の小さな村である。農地は、1,800haで内水田が832haであり、4つの河川流域に水田地帯が広がっている。

(2) 稲作の経緯

初山別村の水稲作付け面積は、平成5年に約560haであったが、高齢化が進み平成26年は276haの作付けとなっている。特別栽培米は、有志5戸により栽培が開始され、平成26年の春に初山別村特別栽培米生産組合を設立し、使用薬剤など栽培方法の統一を図っている。食品会社(府県)との契約栽培に基づき、主として「風の子もち」を作付けし、他品種の作付けはごくわずかである。

初山別村は人口が少なく担い手が不足している。組合員のほとんどは、高能率防除組合(無人ヘリ)、初山別村機械利用組合(水稲・麦・大豆の収穫及び乾燥調製)の構成員あるいはオペレーターであり、地域の水田農業を担っている。

項目		年次	平成24年	平成25年	平成26年
品 種 別 作付面積	風の子もち		30.59ha	27.54ha	23.30ha
	きたゆきもち		1.31ha	1.30ha	2.18ha
	はくちょうもち		1.19ha	0.66ha	ha
合 計			33.09ha	29.50ha	25.48ha

4 稲作栽培技術の特徴

(1) 土つくりと透排水性改善

水稻の作付けは、表面排水がやや悪い初山別川流域、透排水性の良好な風連別川下流域、粘土質土壌が多い風連別川上流である。このため、秋期の溝掘りによる表面水の除去および心土破碎等による透排水性改善を毎年実地するとともに、稲わらの処理は秋鋤込みを基本としている。

平成24年秋に土壌断面調査および作土と2層目の土壌診断を行い、その結果を施肥設計に活かしている。また、一部農家では、透排水性を改善した圃場などに発酵鶏糞を全層で使用しコストの低減を図っている。

項目		年次	平成24年	平成25年	平成26年
堆肥肥施用量kg/10a			kg	kg	kg
稲わらの処理法	前年産	春鋤込	10%	20%	%
	当年産	搬出	%	%	%
		秋鋤込	90%	80%	100%
土壌改良材kg/10a	資 材 名		粒状ケイカル	粒状ケイカル	粒状ケイカル
	施 用 量		80kg	80kg	80kg
透排水性改善			溝切り 心土破碎	溝切り 心土破碎	溝切り 心土破碎
(備考) サブソイラーと溝切りの併用					

(2) 育苗と本田施肥

苗は中苗マット苗で、育苗ハウスの温度管理を始めとする適正な育苗管理により、健苗を育成している。

本田の窒素施肥量は地域の施肥標準に基づくとともに、5割程度を側条施肥とするなど、初期生育の促進に努めており、もち米団地で多く見られる多窒素栽培は行っていない。更に、あと出来る水田では側条施肥の割合を高めるなど、圃場条件に合わせた施肥設計により中庸な草姿の稲作りを目指している。

項目		年次	平成24年			平成25年			平成26年		
			N	P	K	N	P	K	N	P	K
施 肥 (kg/10a)	全 層		4.8	3.6	3.1	4.8	3.6	3.1	4.8	3.6	3.1
	側 条		4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
追 肥	kg/10a										
	期 日										

(3) 水管理

大部分の圃場で用排水が分離されており、適正な水管理が可能であるとともに、畦補修を適宜行い、平成26年は8haのほ場で実施した。畦補修は、組合員所有のユンボおよび地域の畦塗機を用いて行い、ネズミの巣などで漏水する部分は踏み固めてからかさ上げしている。これらにより、幼形期以降は徐々に深水とし、冷害危険期には水深20cmを確保するようにしている。

(4) 収穫、乾燥、調製

収穫は、地区の下見検査などを参考にして、整粒歩合を確認後直ちに開始し適期収穫に努めている。平成26年の収穫作業は9月11～25日で、慣行栽培によるJAオロロン管内のもち米収穫より5日早く終了した。

乾燥、調製は初山別村機械利用組合において、除湿乾燥・遠赤外線乾燥による二段乾燥を行っている。また、1.9mmグレーダによる選別調製を行うとともに、色彩選別により高品質な製品に仕上げている。グレーダによる調製歩留まりは慣行栽培米に比べて特栽米がまさっている。

項目	年次	平成24年	平成25年	平成26年	3カ年の合計
総出荷数量 ①		3,026俵	2,641俵	2,497俵	8,164俵
一等米数量 ②		3,026俵	2,641俵	2,497俵	8,164俵
一等米比率②/①		100%	100%	100%	100%
合計		3,026俵	2,641俵	2,497俵	8,164俵

5 クリーン農業等の取り組み

施肥標準に基づく窒素施肥量による中庸な草姿の稲体を目指しているため、いもち病の発生がほとんど見られない。従って、育苗箱施用は殺虫剤のみとし、いもち病の育苗箱施用剤および本田予防剤の水面施用を省略でき薬剤費の節減につながっている。

また、組合員のほとんどが無人ヘリのオペレータであり、フェロモントラップによるカメムシの発生予察により適期防除を実施しており、この際、殺虫剤の散布時期を的確につかみ回数を減らしている。

項目	年次	平成24年	平成25年	平成26年	3カ年の合計
有機JAS・特栽米・環境保全型農業等取組面積		33.09ha (38.4%)	29.50ha (38.8%)	25.48ha (33.9%)	88.07ha (37.1%)
一般栽培面積		53.15ha	46.53ha	49.67ha	149.35ha
合計面積		86.24ha	76.03ha	75.15ha	237.42ha

6 特色ある栽培の取組

水田土壌の断面調査などの研修会は、組合員の全員参加で実施している。水稻の生育状況とフェロモントラップによるカメムシの発生予察により、防除の開始時期、防除間隔、追加防除の有無について判断し、平成26年は7月下旬と8月上旬に適期防除を実施するとともに、病害虫防除のための無人ヘリのオペレータ業務により地域に貢献している。

また、特別栽培米生産に取り組む先進地視察および当組合への視察の受け入れを実施し、更

に、実需者のもち販売店を視察し、求められるもち米の品質等について学習している。

（執筆者：留萌農業改良センター 本所 調製係長 平 山 敦 樹）
一般社団法人 北海道米麦改良協会 技監 相 川 宗 巖）